

産後の不安尺度の開発と関連要因の検討

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 永田, 智子 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003354

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 16 号

産後の不安尺度の開発と関連要因の検討

(Development of the postpartum anxiety scale and study on associated factors)

永田 智子 (ながた ともこ)

博士 (看護学)

論文内容の要旨

【目的】

産後の不安障害はうつ病よりも高い罹患率であり、乳幼児の情緒的問題や産後うつ病のリスク要因であるにもかかわらず、研究や介入が軽視されている。また、診断基準は満たさないが、生活に支障や苦痛が生じている不安を持つ女性への支援の必要性が報告された。しかし、本邦では、産後の不安に特化した信頼性妥当性が検証された尺度は数少ない。本研究の目的は、診断基準は満たさないが、生活に支障や苦痛が生じている看護介入が必要なレベルの産後の不安を測定する尺度を開発し[調査 1]、産後の不安の関連要因を探索すること[調査 2]である。

【方法】

尺度原案の作成:産後女性へのインタビュー調査の結果と国内外の周産期の不安尺度の項目を集約し、300 項目のアイテムプールを作成した。その後、内容妥当性、表面妥当性を確認し、「産後の不安尺度試作版」とした。次に Web 調査によるプレテストを行い、回答に偏りがある項目を修正し、78 項目の「産後の不安尺度原案」を作成した。

データ収集:産後半年以内の女性を対象に、2018 年 7~9 月、乳児健康診査や子育て支援施設などで質問紙を配布し、郵送法にて回収した。

分析:項目分析と探索的因子分析の後、内的整合性、併存妥当性、既知グループ法により信頼性妥当性を確認した。また、開発尺度のカットオフ値は、ROC 解析にて算出した。産後の不安の関連要因は、t 検定や相関関係の確認により有意な結果がみられた変数を独立変数、尺度合計点および下位尺度得点を従属変数とした、数量化 I 類の分析を行った。

【結果・考察】

質問紙は 972 部配布し、分析対象は調査 1 で 376 名(有効回答率 38.7%)、調査 2 は 298 名(同 30.7%)であった。「生活・認知・感情コントロール」、「母親としての能力」、「子どもの健康と安全」、「パートナーとの関係性」、「出産後のキャリア」、「子どもへの応答性」の 28 項目 6 因子構造の産後の不安尺度が開発された。各因子の Cronbach' α 係数は $\alpha = .552 \sim .880$ であり、一定の信頼性が支持され、併存妥当性、既知グループ法により妥当性が確認された。尺度合計 27 点とするカットオフ値は、AUC .73、感度 .70、特異度 .63 であり、一定の診断予測能力をもつことが示された。産後の不安の関連要因は、精神疾患既往、産後の身体の不調、経済的不安、就業状況、パートナーの家事育児への協力、相談相手、ソーシャルサポート、出産歴であることが明らかになった。